

# 紀の川河川整備計画について

## 第1編

(これまでの整理)

平成14年11月18日

近畿地方整備局

# 目 次

## 第1編

### 第1章 目標流量の検討について

#### 第1節 計画の対象とする雨量の検討

#### 第2節 雨の降り方の検討

### 第2章 大滝ダムによる洪水調節

### 第3章 概略的な河川整備の考え方

### 第4章 各洪水規模における量、課題等の抽出

# 第1章 目標流量の検討について

# 紀の川河川整備計画における 目標流量の設定について

<目標流量とは？>

今後20年～30年の河川整備計画を検討するために、前回の流域委員会での議論を踏まえ、対象洪水の規模について検討することとしました。

この「洪水」を表す方法には、雨量、流量、水位などのさまざまな方法がありますが、一般的な治水計画の策定方法として、以下の手順により検討することとしました。

- ①実績の雨量を基に河川整備の対象とする雨量(計画雨量)を定める。
- ②当該雨量に対する流量を計算によって求める。
- ③当該流量を安全に流下させる河川整備メニューを策定する。

なお、当該流量のことを「目標流量」と呼びます。

# 目標流量の設定の考え方

目標流量を検討する上で、まず、どのくらいの雨量を対象とするか決めることとしました。

雨量は、台風のコースや前線の配置などによって違います。したがって雨量を検討する場合、降った雨の量(ボリューム)と雨の降り方(どの地域にどのくらい降ったか)を検討することとしました。

## 雨量の検討

- 戦後最大実績雨量(S34. 9)をベースに、計画の対象とする雨量(計画雨量)の検討
- 洪水の雨の降り方を検証し、計画の対象とする降雨パターン(雨の降り方)を検討

## 目標流量

計画雨量と降雨パターンの組合せによる流出解析により目標流量を設定

# 目標流量の設定フロー

